
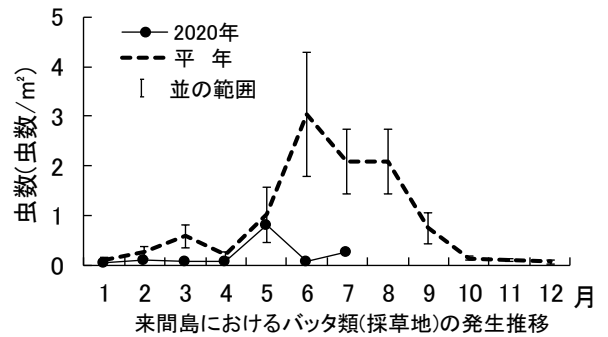
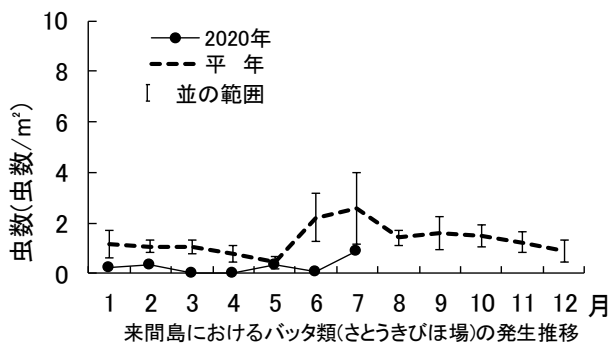


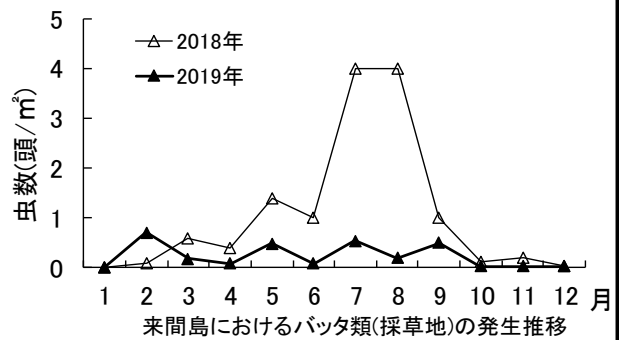
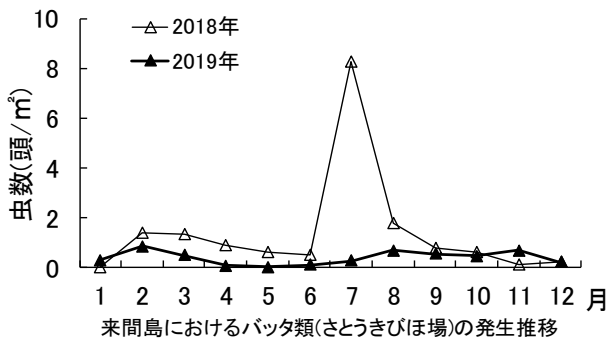
作物	さとうきび	地域	宮古群島
病害虫名	バッタ類		
調査結果	7 月の発生量 (平年比)	やや少	
予報	7 月からの増減傾向	↓	
	8 月の発生量 (平年比)	やや少	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)	

調査結果

今年と平年の推移



過去 2 年の推移

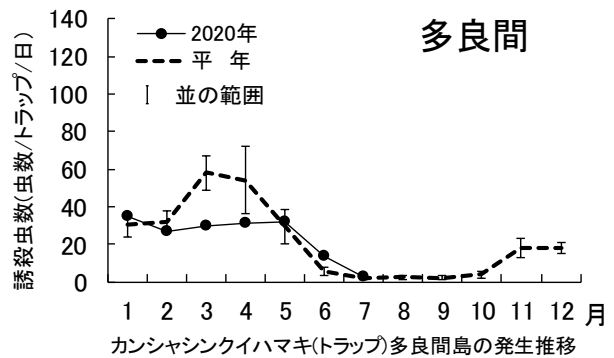
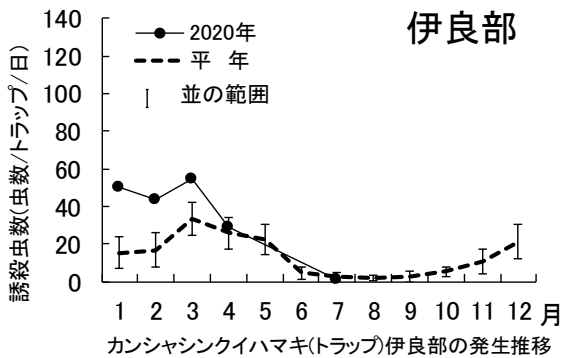
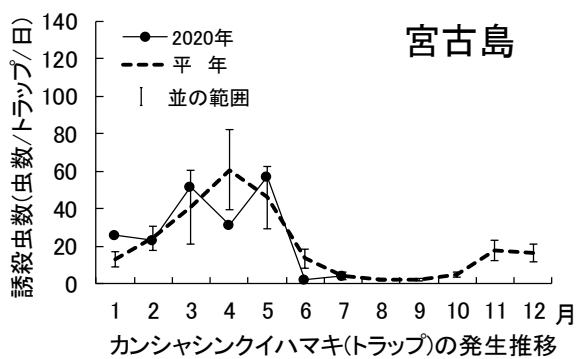


防除のポイント

- ・ 発生源となるほ場及び周辺の除草を徹底する。
- ・ 成虫防除を実施する場合には、活動の鈍い早朝に一斉防除を行うと効果的である。

作物	さとうきび		地域	宮古群島
病害虫名	メイチュウ類 (カンシャシクイハマキ)			
調査結果	7 月の発生量 (平年比)	—		
予報	7 月からの増減傾向	—		
	8 月の発生量 (平年比)	—		
予報の根拠				

調査結果



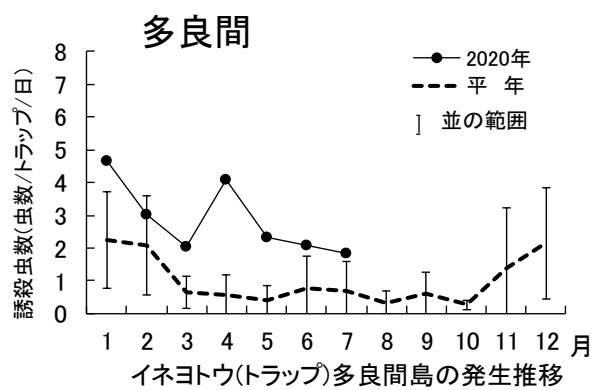
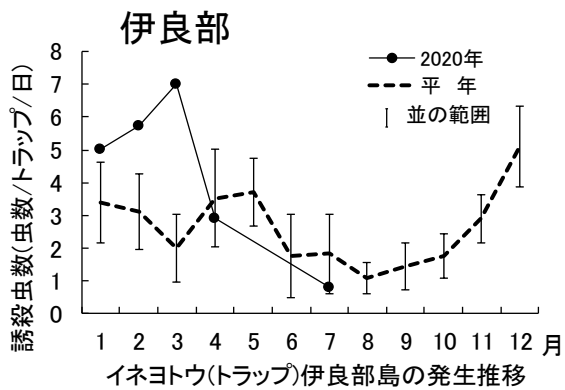
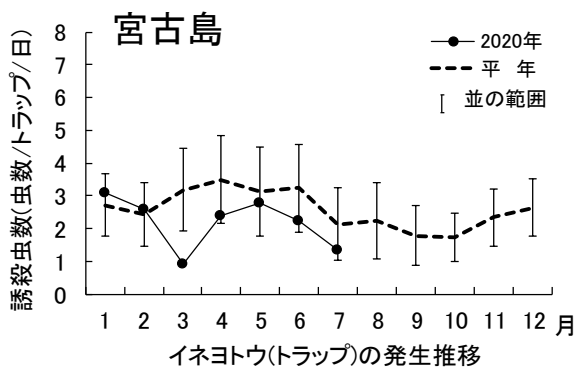
・病害虫防除員の報告 (メイチュウ類) : 中発生 (多良間島)

防除のポイント

- ・ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

作物	さとうきび	地域	宮古群島
病害虫名	メイチュウ類 (イネヨトウ)		
調査結果	7 月の発生量 (平年比)	—	
予報	7 月からの増減傾向	—	
	8 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			


調査結果



・病害虫防除員の報告 (メイチュウ類) : 中発生 (多良間島)

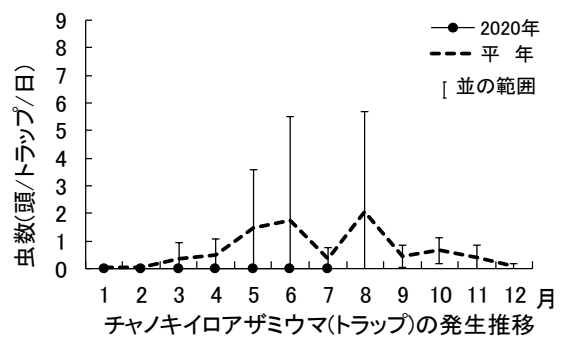
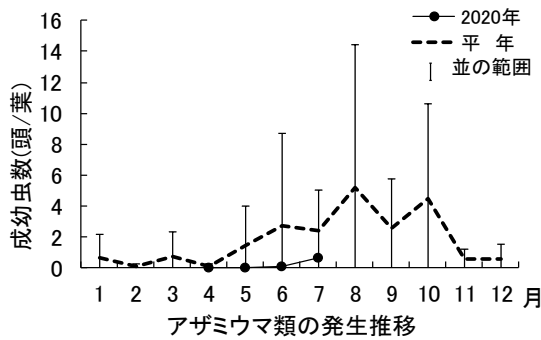
防除のポイント

- ・ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

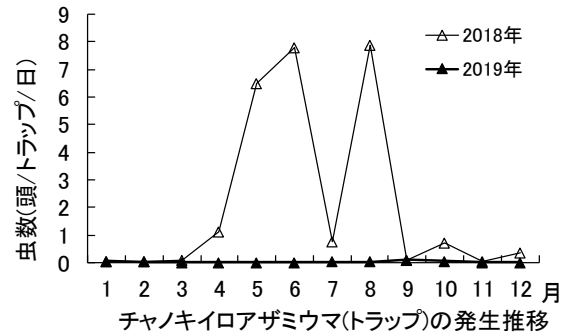
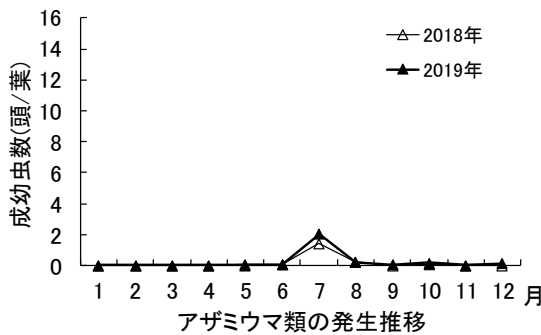
作物	マンゴー	地域	宮古群島
病害虫名	① チャノキイロアザミウマ		
調査結果	7 月の発生量 (平年比)	並	
予報	7 月からの増減傾向	↗	
	8 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗) 新梢の発生量が増加するため	

調査結果

今年と平年の推移



過去2年の推移




・発生ほ場率：80% (平年値：74.5%)

防除のポイント

- ・ 不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。
- ・ 収穫期に発生が多かった施設では、せん定終了後に薬剤による防除を行う。
- ・ コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

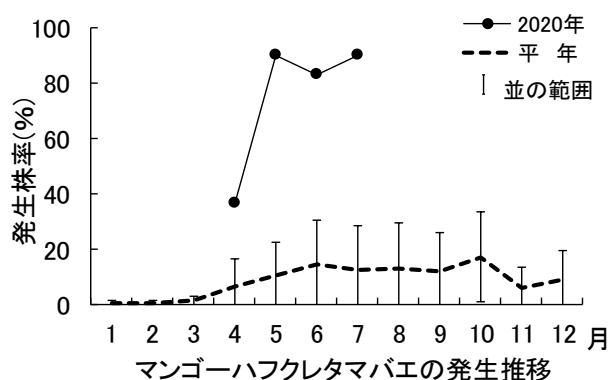


ナガエコミカンソウ

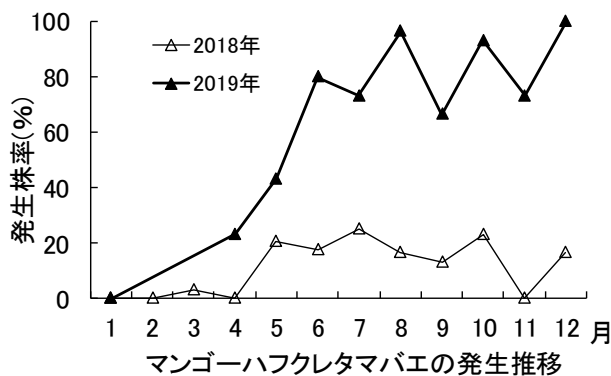
作物	マンゴー	地域	宮古群島
病害虫名	② マンゴーハフクレタマバエ		
調査結果	7 月の発生量 (平年比)	多	
予報	7 月からの増減傾向	→	
	8 月の発生量 (平年比)	多	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→) 新梢が発生量が増加するため	

調査結果

今年と平年の推移




過去2年の推移



- ・被害新梢率：45.1% (平年値：21.7%)
- ・発生ほ場率：100% (平年値：35.9%)

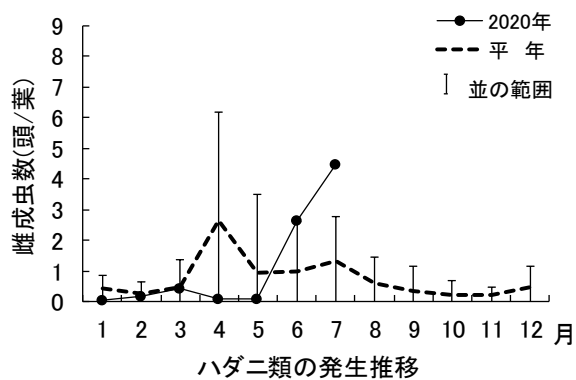
防除のポイント

- ・幼虫は、新葉から新梢の軸までの柔らかい組織内に潜行して食害し、成熟すると飛び出し、地面に落下して蛹化する。
- ・翌不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。

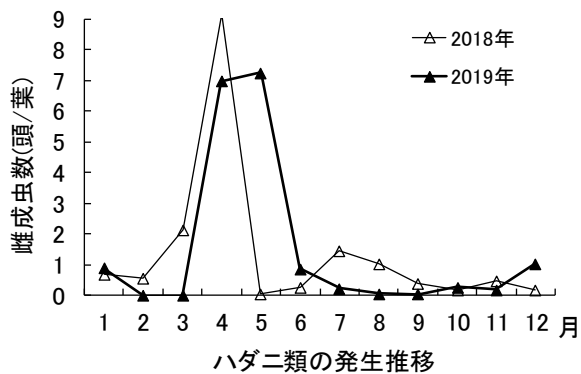
作物	マンゴー	地域	宮古群島
病害虫名	③ ハダニ類		 <p>シュレイツメハダニ</p>
調査結果	7 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報	7 月からの増減傾向	↓	
	8 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)	

調査結果

今年と平年の推移



過去2年の推移




- ・発生種：シュレイツメハダニ
- ・発生施設率：80% (平年値：50.0%)
- ・新梢での寄生雌成虫数：1.16頭/葉 (発生種：シュレイツメハダニ)

防除のポイント

- ・収穫終了後の防除を徹底する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



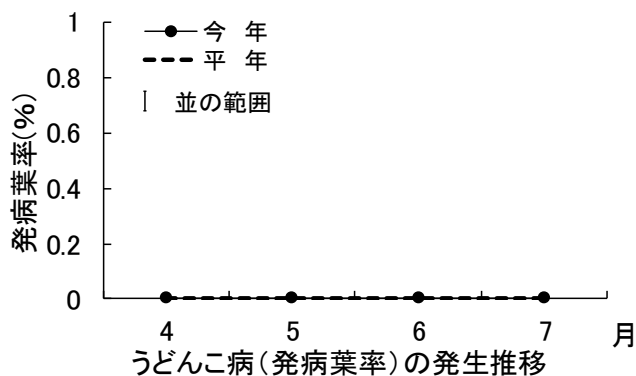
ハダニの寄生による葉のかすれ症

作物	オクラ	地域	宮古群島
病害虫名	① うどんこ病		
調査結果	7 月の発生量 (平年比)	並	
予報	7 月からの増減傾向	—	
		8 月の発生量 (平年比)	—
予報の根拠			

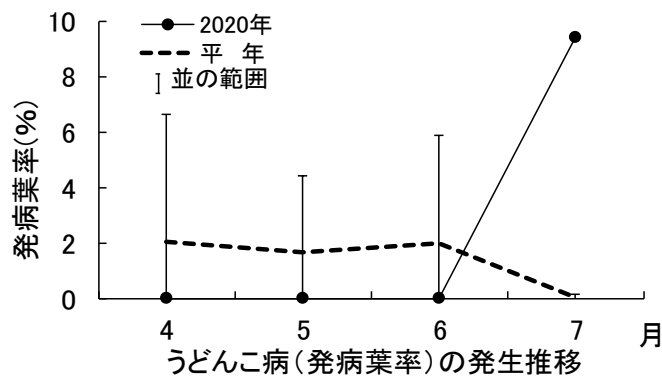
調査結果

今年と平年の推移

中央値




平均値



・発生ほ場率：20% (平年値：4.2%)

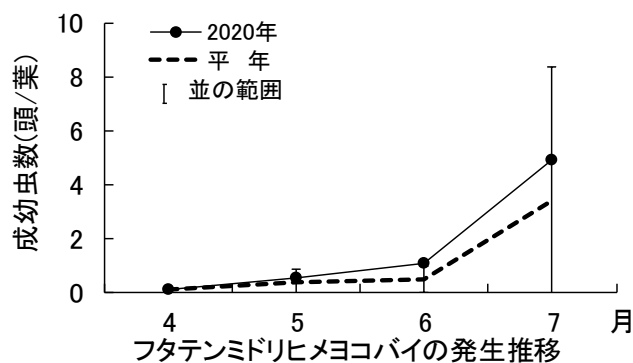
防除のポイント

- ・下位の罹病株や残葉は速やかに除去し、風通しを良くする。
- ・窒素過多にならないようにする。
- ・草勢を維持し、適切な施肥管理を行う。

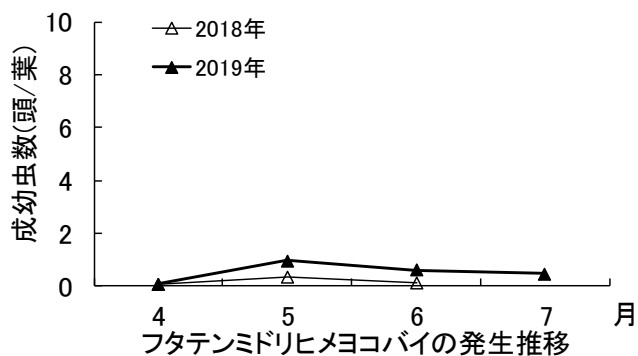
作物	オクラ	地域	宮古群島
病害虫名	② フタテンミドリヒメヨコバイ		
調査結果	7 月の発生量 (平年比)	並	
予報	7 月からの増減傾向	—	
	8 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果

今年と平年の推移



過去2年の推移




・発生ほ場率：80% (平年値：79.2%)

防除のポイント

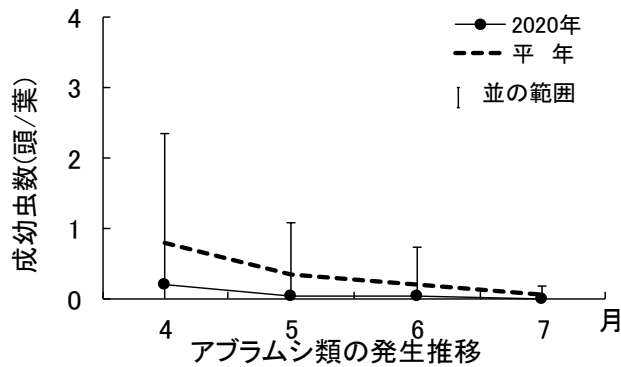
・多発すると被害葉は黄変萎縮するので、葉裏を観察し、早期発見・防除に努める。



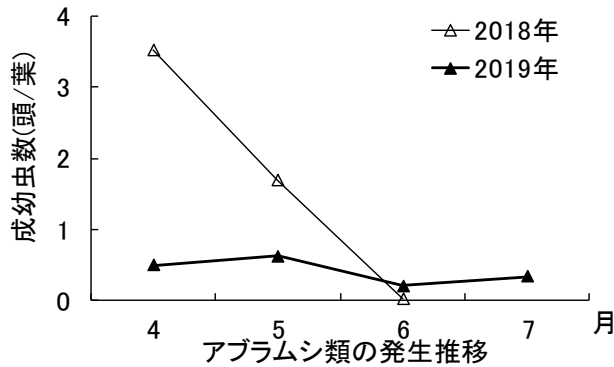
作物	オクラ	地域	宮古群島
病害虫名	③ アブラムシ類		
調査結果	7 月の発生量 (平年比)	並	
予報	7 月からの増減傾向	—	
	8 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果

今年と平年の推移




過去2年の推移



・発生ほ場率：20% (平年値：4.2%)

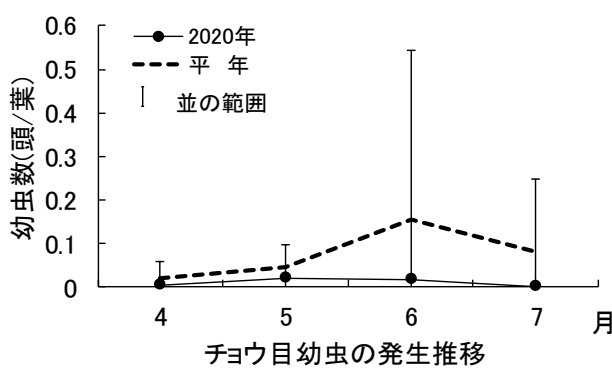
防除のポイント

- ・多発すると新葉の萎縮や芯止まりにより生長が阻害されるため、葉裏をよく観察し、早期発見防除に努める。
- ・発生源となるほ場内外の雑草を除去する。

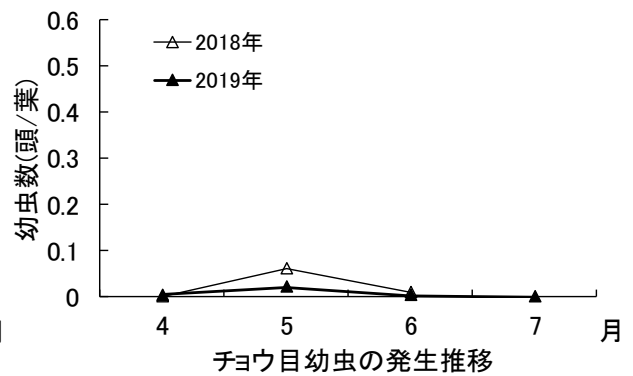
作物	オクラ	地域	宮古群島
病害虫名	④ チョウ目幼虫(オオタバコガを除く)		
調査結果	7 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
予報	7 月からの増減傾向	—	
	8 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果

今年と平年の推移



過去2年の推移



・発生ほ場率：0.0% (平年値：33.3%)

防除のポイント

- ・発生密度が低い場合は、捕殺が有効である。
- ・葉裏の幼虫に対しては薬剤効果が低減するので、若齢幼虫期のかすり状被害を発見したら、速やかに薬剤を散布する。

